

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：33801

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K13078

研究課題名（和文）保育現場と家庭の効果的連携方法の構築 手書き連絡帳と電子連絡帳の比較を通して

研究課題名（英文）Construction of an Effective Cooperation Strategy between Teacher and Parents through Comparison between a Handwritten and a Digital Contact Book

研究代表者

高 向山 (GAO, Xiangshan)

常葉大学・健康プロデュース学部・准教授

研究者番号：60410495

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：保育者・保護者間の関係形成には次の3パターンがあると分かった。1)保育者と保護者双方が働きかける側および応答する側として末尾に「ね」を使用する。2)保育者は働きかける側として「ね」を使用し、保護者は応答する側として語尾に「ね」を使用する。3)保育者と保護者は応答する側として語尾に「ね」を使用する。

連絡帳の電子化などを含めたICTの導入に積極的でない意見として、知識研修不足・初期費用、個人情報漏洩の危険、温かみなどを含めた費用面・機械面・技術面・感情面がある。導入済み園の意見として、人的要素の効率化・情報共有の効率化・資料管理の効率化などの効率化面および個人情報の流出防止が考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は単語などの規則性を探求するテキストマイニングという手法を採用して、幼稚園や保育所などで使用されている手書き連絡帳を分析し、子育て支援の可能性を探索した。その結果、保育者と保護者の間にはいくつかの記述パターンがみられた。また、近年導入の動きがみられる連絡アプリなどの電子連絡帳を含めた保育のICTに関する意識調査を行った。私立園においては、定員規模が大きいほどICT化に対して積極的であるが、未導入の理由に知識研修不足が半数を占め、慣れない機械作業に時間をかけると効率化どころか、業務の負担増になりかねないとして捉えられている。

研究成果の概要（英文）：According to our study, there are three patterns in the formation of relationships between caregivers and parents;1) The use of "ne" at the end of a sentence was found both for the caregiver and the parent from the position of action and the position of response. 2) The caregiver uses "ne" from the position of action whereas the parent uses it from the position of response.3) Both the caregiver and the parent use "ne" from the position of response. Negative aspects of the introduction of ICT are the following: costs, equipment, technology and just as important, the emotional aspects such as lack of knowledge training, initial costs, fear of leakage of personal information, and lack of warmth. Established day care centers that have already implemented the ICT system emphasize efficiency in the areas of human resources, information sharing and material management. Above all, extreme care should be taken to prevent the leakage of personal information.

研究分野：子ども学 発達心理学

キーワード：連絡帳のテキストマイニング分析 電子連絡帳の長所と短所 意識調査

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 連絡帳における対話的役割を言語的メッセージルールによって明らかにする。

従来の研究では、保育所の連絡帳には保育者と保護者との意思疎通、つまり情報共有の機能が示唆されている(土山、1983; 広沢ほか、1995; 中西、2009など)。しかし、メッセージルールを解明するという観点から保育者と保護者の逐語分析は行われていない。連絡帳は保育者と保護者間のコミュニケーションの一部であるため、明確な基準を用いて、会話の中のルールを明らかにすることは重要である。

両者の連携が成立するためのパターンを解明すれば、保育者が保護者との連絡帳での対話が成立しやすい要素を意識して対応するようになり、多忙な保育業務の中で保護者との連携が取れやすくなると考えられる。

(2) 手書き版と、近年導入の動きが散見される連絡アプリなどの電子版との比較検討を行う。

長年、保育現場で用いられた連絡帳は手書きによるものであったが、時代の変化とともにさまざまな種類の電子版が開発されている。しかし、電子版が保育現場に浸透するに至らない理由を明らかにする必要がある。手書き版と電子版の比較検討を行うことで、それぞれの有効性を明らかにすることが可能となり、それは家庭との連携の有用性につながる。

### 2. 研究の目的

本研究は言語的メッセージルールの解明という視点に立って、幼稚園や保育所などで使用されている手書き連絡帳を分析し、子育て支援の可能性を探索する。また、近年導入の動きがみられる連絡アプリなどの電子連絡帳の導入に関する意識調査を行い、手書き連絡帳と電子連絡帳それぞれの長所と短所について検証する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 手書き連絡帳の分析について

研究の対象: 本研究で使用する連絡帳は東京近辺にある中規模公立保育所に通うS児、中部地方にある中規模民営保育所に通うM児、中部地方にある大規模民営幼稚園に通うT児、計三名分の連絡帳である。連絡帳の記述期間は、S児が二歳児クラスの一年間分(2013年度)、M児が二歳児クラスから三歳児クラスの約二年間分(2015-2016年度)注1)、T児が年少クラスの一年間分(2010年度)である。記述者は保育者(保育経験歴五年以下の若手三名、保育経験歴十年程度の中堅一名、保育経験歴二十年以上のベテラン二名の計六名および保護者(四名)である。

分析の方法: 本研究は連絡帳を「言語行為」として捉え、その行為を通して保育者と保護者との関係形成のパターンを探るためにテキストマイニング(text mining)手法を採用した。分析にはKHcoder(樋口、2014)を使用した。

#### (2) 電子連絡帳導入を含めた保育のICT化に関する意識調査について

研究の対象: 東海地区C県にあるAとB両市内の公営および民営の保育所、幼稚園、認定こども園を含む保育・子育て支援施設493園を対象とした質問紙調査を行った。277園から回答が返送され、回収率は56.2%であった。

分析の方法: 選択設問に対しては単純集計を行い、記述回答に対してはKHcoder(樋口、2014)を用いた。

### (3)電子連絡帳と手書き連絡帳それぞれの長所と短所について

電子連絡帳をすでに導入した東京近辺にある中規模会社経営保育所園長、北関東にある大規模民営こども園長、中部地方にある大規模民営こども園長、中部地方にある大規模民営幼稚園長、中部地方にある小規模会社経営保育所園長計5名を対象として、インタビュー調査を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 手書き連絡帳の分析について（高ほか投稿中）

#### 2歳及び3歳児クラスを担当する保育者の記述特徴について

保育者は記載文の末尾に同調性を表す「ね」を使用する頻度が高く、それが時間的連続性・空間的連続性・受容可能性・推量判断のいずれかのカテゴリーと共起関係にあることが判明した。

#### 2歳及び3歳児クラスを持つ保護者の記述特徴について

保護者の記述の規則性については、保育者の記述的な働きかけによって変動する可能性が示唆された。

#### 2歳及び3歳児クラスの保育者と保護者のやり取りにおける記述特徴について

A) 働きかける側と応答する側の双方が末尾に「ね」を使用し、『相互的同調性志向』パターンがみられた。保護者は書き方に個人差の幅が大きいものの、保育者の働きかけによって少しずつ変化する可能性が示唆される。また、このパターンには時間的な連続性が意識されやすい特徴もあり、他のカテゴリーより主観が入りにくく、読み手にとっても前向きな気持ちや見通しを持ちやすく、関係成立に有利なのかもしれない。

B) 働きかける側が「ね」を使用し、応答する側が「ね」を使用する『一面的同調性志向』パターンがみられた（高ほか投稿中）。このパターンでは保育者は働きかける際に「ね」を使用しがちであるのに対して、保護者は応答する際に使用しがちである。記述内容が園や家庭といった空間内での出来事に限定され、推量と判断を伴う主観的な言葉が入りやすく、やりとりが続かなかったり、応答するのに負担に感じたりするような状況に陥りがちで、コミュニケーションが双方向性から離脱する恐れがあるかもしれない。

C) 保育者と保護者は応答する側として語尾に「ね」を使用する『誘発的同調性志向』パターンがあり、推量と判断を伴う主観的な言葉が入りやすく、やりとりが続かなかったりする恐れがある。

### (2) 電子連絡帳導入を含めた保育のICT化に関する意識調査について

#### 単純集計結果（高ほか、2019）

A) 私立園においては、定員規模が大きいほどICT化に対して積極的であるが、小規模保育所では目立って低く、幼稚園はどの規模でも8割前後の高い導入率であった。

B) 私立園における導入済みの種類について、上位を占めているのはメール配信（87.3%）、登降園管理（58.7%）、園児台帳管理（53.2%）、延長保育の管理や料金計算（50.0%）と写真販売（39.7%）であった。

C) 導入済みのソフトやアプリのうち、役立たない種類として上位を占めたのは、日誌・指導計画管理（15.1%）と勤務シフト（13.5%）であった。いずれも割合としては低いですが、わざわざ回答するのは導入したものの、期待とずれて使いこなせておらず、それらによって業務簡略化に寄与するかという現場からの疑問が反映されたと受け止められる。

D) 私立園における未導入の理由について、知識研修不足（43.5%）、初期費用（39.1%）、運営費用（29.0%）、その他（27.5%）と必要性を感じない（26.1%）の5つが上位を占めた。ICTシステ

ムの導入に際して十分な知識や研修がないという理由が一番多く半数近く占めたのは、機械操作や不具合などの知識面・技術面における現場の高い不安の表れであり、国や市町村をはじめ養成校に与えられた課題として受け止められよう。また、必要ない(26.1%)と興味ない(1.5%)を併せると3割近くを占めていることから、保育業界では情報機器の使用に積極的になれない現状が浮き彫りとなった。

慣れない機械作業に時間をかけると効率化どころか、業務の負担増になりかねないとして捉えられている。しかし、定員規模が大きいほどICT化率が高くなるという今回の結果からも、保育業務の効率化には情報機器の活用が有用であると徐々に認知されているといえる。機械操作の知識面・技術面における養成校として役割が大きいのではないかといえる。

記述回答結果(高ほか投稿中)

「保護者とのコミュニケーションにICTを用いることの課題について」自由記述を得た129名を分析対象とした。

A) 回答者の属性については、どの種別の協力園でもおおむね8割程度の回答が女性からであった。運営主体別では、国公立では9割以上が女性からの回答であった。また、回答者年齢層については50代の回答者一番多く、5割前後を占めている。

B) 形態素解析により、24語以上の名詞、サ変名詞、形容動詞等の頻出語が抽出された。頻出語間の共起ネットワークから、保護者・コミュニケーション・ICTが強い共起関係にあるのに対して、連絡・手書きも強い共起関係にあり、情報機器の使用と保護者とのやり取りが管理職の中では両立していないことが浮き彫りとなった。その背景には、個人情報の管理への懸念と直接会話への重要視の2点が考えられる。そこで、ICTの更なる有効活用のためには、教職課程を有する養成校の役割として在校生への情報リテラシーの教授と同時に、50代女性管理職向けのICT研修もあわせて実施する必要があるといえる。

### (3) 電子連絡帳と手書き連絡帳それぞれの長所と短所について

電子連絡帳を導入する理由などから長所を探った。

#### a) 連絡帳の内容を、個人の記録として活用できること

手書き連絡帳は最終的には保護者の手に渡り、園には残らない。電子化することで、保護者にも園にもデータが残り、そのデータをもとに振り返ったりして、個人情報を配慮した形で必要な個人記録を作成することができる。

#### b) 紙媒体に比べて、写真の添付や動画の添付など、情報量が圧倒的に多いこと

文章による伝達よりも、ひと目で伝わる画像による伝達が比較的楽にできることは、子どもの育ちを伝えるだけでなく、保育の見える化という観点でも有益だと考える。

#### c) 児童の状況がリアルタイムで確認できる

#### d) 書類の紛失が防止できる

#### e) 取り違いが防止できる(万が一取り違えても一日分の内容で済む)

つまり、電子連絡帳は人的要素の効率化・情報共有の効率化・資料管理の効率化などの効率化が図れると同時に、個人情報の流出防止にも良いと考えられる。言い換えれば、それらは手書き連絡帳の短所としても考えられる。

電子連絡帳の導入や運営に当たり、大変だったことから短所を探った。

#### a) 職員のスキル向上に時間がかかる

保育界はアナログの世界で、電子化するにも一苦労があり、導入のためにスキルや理解を持つ指導者が必要である。

b) 手書きの良さを失うことへの抵抗感

手書きのほうに温かみがある。

c) システムエラーや電波状況により不具合が生じて記録されないリスクがある

d) スマホがない方や、携帯がない方は個別対応になる（全体の1%程度存在）

e) 費用が掛かる

つまり、電子連絡帳は費用面・機械面・技術面・感情面において短所があると考えられる。言い換えれば、それらは手書き連絡帳の長所としても考えられる。

<引用文献>

高 向山、梅崎高行、若尾良徳、山際勇一郎、保育のICT化に関する意識調査：東海地区C県A市とB市における導入状況からの報告、日本子育て学会第11回大会発表論文集、2019、68-69

樋口耕一、社会調査のための計量テキスト分析 - 内容分析の継承と発展を目指して -、ナカニシヤ出版、2014

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高向山・梅崎高行・若尾良徳・山際勇一郎
2. 発表標題 保育のICT化に関する意識調査：東海地区C県A市とB市における導入状況からの報告
3. 学会等名 日本子育て学会第11回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高 向山
2. 発表標題 連絡帳の定量分析から考える保育者メッセージの特徴について
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高 向山・山際勇一郎・梅崎高行・若尾良徳
2. 発表標題 幼稚園連絡帳における教諭メッセージのテキストマイニング
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高 向山・若尾良徳
2. 発表標題 保育所連絡帳における家庭との連携機能について 分析手法を概観して
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高 向山・若尾良徳・梅崎高行・山際勇一郎
2. 発表標題 幼稚園連絡帳にみる家庭との関係構築のルールについて
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高向山・若尾良徳・梅崎高行・山際勇一郎
2. 発表標題 幼稚園出席簿における家庭との関係構築・維持の役割について：談話分析の視点からの一考察
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高向山・若尾良徳
2. 発表標題 保育所連絡帳における家庭との連携機能について：分析手法を概観して
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山際 勇一郎  (YAMAGIWA Yuichiro)  (00230342)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授   (22604)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	梅崎 高行  (UMEZAKI Takayuki)  (00350439)	甲南女子大学・人間科学部・准教授    (34507)	
研究 分担者	若尾 良徳  (WAKAO Yoshinori)  (70364908)	日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授    (32672)	
連携 研究者	小湊 真衣  (KOMINATO Mai)  (60742731)	帝京科学大学・教育人間科学部・講師    (33501)	